

平成28年度 森と木の恵みを育む推進会議 摘録

- ◆ 日時：平成29年3月21日（火） 14:00～15:45
- ◆ 場所：京都ガーデンパレス 橋の間
- ◆ 出席者：以下参照

区分	名前 (敬称略)	所属	
委員	青合 幹夫	京都府森林組合連合会 代表理事会長	会長
	丘 眞奈美	京都ジャーナリズム歴史文化研究所 代表	副会長
	北川 義晴	京都地区森林組合連絡協議会 会長	
	笹原 明雄	京都木材協同組合 理事	
	竹内 明	杣人工房 嵯峨・木のこゝろ「風」 代表	
	中野 三郎	公益財団法人京都市森林文化協会 理事長	
	橋本 直子	(株) HIBANA 代表取締役	
事務局	納谷担当部長	京都市農林振興室	
	川田課長	京都市農林振興室林業振興課	
	岸本係長	京都市農林振興室林業振興課	
	細井担当	京都市農林振興室林業振興課	
オブザーバー	仲井 友治	森と木の恵みを育む実践活動事務局	

- ◆ 当日資料：以下参照

資料No.	資料名
	次第
	出席者名簿
	配席図
資料1	京都市の森林・林業に関する施策
資料2	平成28年度 森と木の恵みを育む実践活動報告
資料3	平成29年度 森と木の恵みを育む実践活動について（案）
参考資料1	森と木の恵みを育む推進会議開催要綱
参考資料2	平成27年度 森の木の恵みを育む推進会議 摘録

1 挨拶

京都市産業観光局農林振興室納谷担当部長より挨拶

2 委員紹介

3 報告・確認事項

(1) 本市施策の取組状況について (資料1)

- 資料1に基づいて事務局から説明
- 主な意見及び質疑応答

(委員)

森林環境税を使って未利用材の搬出助成をさせていただいているが、人が足りないので間伐・皆伐にも限度がある。

(事務局 京都市)

市としては28年度から新たな枠組みを考えていて、儲かる林業を目指すにはどういう形を進めていったらいいのかといった部分を検討中である。仕事を創出できれば、自ずと担い手も育ってくるのではないかと考えている。

(委員)

京都伝統文化の森推進協議会のセミナーも最初は参加者が少なかったが、最近は申込みも増え200名を超えるときもある。市民の皆さんが三山の保全に大変興味を持ってくださっている。セミナーの会場にみやこ杉木など普及に繋がるような展示を行うことも可能かと思う。連携してやっていくべき。

(委員)

北山丸太は全国的に有名なので、これから建設、リニューアルされる市内のホテル等にPRできればかなり普及するのではないかという気がする。

(委員)

ペレットストーブの利用拡大状況であるが、市内で350台、府下ではその倍くらいで台数は年々増えている。

京都府で制定した再生可能エネルギーに関する条例に関係して「京都再エネコンシェルジュ」という資格ができたが、この資格を持った方々と一緒に何かできることがあるかと思う。

(委員)

28年度は豪雪災害もあり、災害に強い森づくりは一番の施策ではないかと感じている。木材の需要拡大は近々には実現しないので、それを待っていては山の荒廃が進んでしまう。

(2) 平成28年度森と木の恵みを育む実践活動について (資料2)

- 資料2に基づいて実践活動事務局から説明
- 主な意見及び質疑応答

(委員)

28年度実践活動報告にあった「冬の京野菜まつり」への出展は野菜がテーマのイベントでありちょっと無理がある。本来の木の需要に特化できるようなイベントに参加するほうがよいのでは。29年度はしっかりとした活動内容にして、それに基づいて効果が高いものをねらってはどうかと思う。そのための一つとして、「木育」、幼少時に木のいいところを見

せるというのは大切なことなので、これができる常設の場所ができないかと考えている。

(委員)

ツリーハウスの製作について、生徒さんの熱心さにうたれ支援したいと思った。

4 協議事項

(1) 平成 29 年度森と木の恵みを育む実践活動について (資料 3)

➤ 事務局からの説明

資料 3 に基づいて事務局案を説明

➤ 主な意見及び質疑応答

(委員)

若い建築士さんと関わる機会があったが、木は使っているけど、山のことはまったく知らないという実情がわかった。使う側との交流を実践活動や施策の中でやっていく必要があるのではないか。

(委員)

工務店でみやこ杉木を知っている方は少ない。京都の現状を知ってもらうような啓発をすることは大事。北山丸太を使ってこんなものが作れるというコンペを行い、アイデアを引き入れて需要に繋げるようにするのはどうか。

(委員)

市から報告があった東京ビックサイトやマルイでの取組みは新たな取組みだと思うが、他の取組みについてはどうか。

(事務局 京都市)

マルイでの取組みは他の商業施設への利用の波及効果が高いと考えている。

その他新たな取組みとして、宿泊施設をつくる際の誘致方針の中で、木材やペレットを使う等、京都らしい文化を発信できるような取組みを進めている。それらが結び付いてくると効果が見えてくると思う。

(委員)

北山杉の良さを従来の形ではなく、センスを発信できるアーティストみたいな人を育てていくのも川下の活動になるのではないか。

(委員)

木育はぜひ進めていくべき。林業女子会でも木育部ができたので、森と木の恵みを育む推進会議のメンバーにも入れていただきたい。木育の広場はニーズがあり、民間企業に広がっている。そういう場づくりを積極的に仕掛けていくべきだと思っている。参考に東京・四ツ谷の「東京おもちゃ美術館」と福井県・池田町の「おもちゃハウスこどもの木」を紹介したい。

(委員)

木育の場を常設でつくってほしい。そこは川上、川下をつなぐ入口だと思っている。京都

の木のことやあらゆることが勉強できる場に繋げていけば、より大きな効果が得られると思う。

(委員)

次の目標で木育の場をつくるべき。

(委員)

木育の場は、最終的には需要拡大に繋がる。まさに森と木のテーマと合致する。この会議は年に1回の開催なのに時間が短くテーマが多すぎる。求めるところは同じだと思うので、29年度の取組の中身の詰めは、今日いただいた意見を踏まえ、1つでも実現に向けてやっていただければと思う。

(事務局 京都市)

実践活動という形の中で議論をし、中身の実現に向けた可能性が高まるような形にもっていきたいと思っている。資料3は案なので、本日の意見を踏まえ中身については再構築したいと考えている。

5 その他

(1) 任期満了に伴う委員改選について

➤ 事務局からの説明

平成29年3月31日をもって委員の任期が満了となるが、この会議をプラットフォームとして継続的な議論を行いたいため、来年度から2年間も引き続き委員をお願いしたい旨を説明。満場一致で了承された。

➤ 主な意見及び質疑応答

(委員)

委員の増員は考えていないのか？

(事務局 京都市)

この会議の増員は考えていない。実践活動のメンバーを増やし、実践活動の中身を充実する、機能を拡充していくほうがいいと思っているので、基本はその方向性で考えていきたい。実践活動のメンバーに林業女子会木育部の方に入っていただく。